

1 主題名 理解し合う心 【B－(10) 友情, 信頼】

2 教材名 心のレシーブ

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目 B－(10)は「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性について理解しながら、人間関係を築いていくこと」をねらいとしている。このことは、中学年の内容項目「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと」を受け、お互いの信頼をもとに真の友情を育てることを目指している。5学年の発達段階においては、集団を作り、特定の友達との関係を深めることが増えてくる。また、今まで以上に相手を意識していき、友達関係が学校生活に影響を与えることもある。その一方で、児童は互いの長所を認め、信頼し、相手の立場になって考えようとする意識が低く、互いを高めていく友達関係を築くまでには至っていない面が見られる。

そこで、よりよい友達関係とは、お互いを認め合い、学習や生活のさまざまな場面で理解し、協力し、助け合う関係であり、性別にかかわらず、お互いの人格の尊重を基盤とし、互いを認め合い、理解し合いながら友情を育んでいこうとする態度を養うことができると考えこの主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、明るく活発で素直である。5年生に進級し、学年のことだけでなく、委員会活動やクラブ活動、たてわり班活動などで6年生と協力しながら活動する場面が多くなり、自分の活動に責任をもって取り組むことができるようになってきた。また、下学年のお手本になって行動しようという気持ちも高まっている。しかしそれと同時に、流行などに敏感になり、仲のよい友達とのみ信頼関係を深めようとする傾向がみられる。事前アンケートで書かれたよく遊ぶ友達の名前も、4月当初と変わらない児童もいる。また、異性への感心が高まる一方で、それが反発となって表れることもあるが、休み時間の遊びやお楽しみ会など、みんなで集まって活動するよさを感じている児童もいる。

そこで本時では、相手を分かり合おうとする気持ちが信頼につながり、同性異性、親しい親しくないにかかわらず、互いのよさに目を向け、信頼することから理解を深め、互いに成長していくことに気づき、協力して学校生活を送ろうとする心情を育てたい。

(3) 教材について <教材名「心のレシーブ」,「新しい道徳」東京書籍>

本教材は、バレーボールの得意な陽子が、はじめは同じチームの男子にやる気がないと不満をもっていた。しかし、運動の苦手な男子の練習試合のがんばりから、地道に練習を重ねていたことを知る。陽子は、今まで決めつけた見方をしていたことに気づき、男子のことを分かろうとしなかった自分を反省し、大会に向けてチームの心が一つになるという話である。男子のよさや自分に欠けていた態度に気付いた陽子の気持ちから、男女が協力するために大切にしたい態度や協力するよさについて話し合うことができると考える。また、男女に限らず、一人一人のよさを認める機会の場を設け、周りにいる友達はかけがえのないものだということにも気付かせたい。さらに自作の「心のサーブ」を活用することで、自分自身も友達にとってかけがえのない大切な存在ということに気付かせ、自己肯定感を高めるようにすると共に、ねらいに迫る手立てとしたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

○友達と互いに理解し合い、よさを認め合いながら人間関係を築いていこうとする心情を育てる。

(2) 準備・資料

道徳ノート 場面絵 タブレット 実物投影機 プロジェクター スクリーン

(3) 展開

主な活動と発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 ○個への配慮 (評)評価 ☆タブレット
1 アンケート結果について話し合う。 ○いつも決まった友達と遊んだり話したりしていることについて、どんな感想をもちましたか。 2 教材「心のレシーブ」を読んで話し合う。 ○陽子は直希と良夫のことを最初はなんて思っていたでしょう。 ○それに対して男子達はどう思ったのでしょうか。 ◎「良夫さんだって、がんばっている。」という直希の言葉を聞いて、陽子はどんなことを考えたでしょう。 (1)自分で考える ・ノートに陽子の気持ちを考えて書く (2)役割演技をする。 ○このチームは、最後はどうなったのでしょうか。また、それはなぜでしょうか。 3 自分の生活を振り返る。 (1)これまでの自分はどうか考えたか。これからどのようにしていきたいか考えるか考える。 (2)今日の学習の中で、自分が考えたことや今までの自分を振り返って、大切だと思ったことをノートに書く。	・自分たちは男女仲よく協力している。 ・もう少し男女分け隔てなく、いろいろな人と協力した方がいい。 【女子】 ・練習をもっとやって欲しい。 ・これじゃ勝てない。 ・男子はもっとがんばってよ。 ・やる気がないみたい。 【男子】 ・女子の態度が冷たい。 ・がんばっているのにひどい！ ・ぼくたち、信用されていない。 ・がんばっているのは分かるけど・・・。 ・がんばってもできていないじゃない。 ・うまくなるように助けてあげたい。 ・もっとアドバイスした方がいいのかな。 ・協力するいいチームになった。 ・男子が放課後練習していたことを知り、がんばりが伝わってきた。 ・係活動などで、いつも決まった友達としか仕事をしなかったけれど、他の友達とも声をかけ合っていたい。 ・相手の気持ちをよく考えて、友達同士でもっと協力していきたい。 ・決めつけしないで、相手のことをよく考えるようにしたい。 ・相手のいいところを見付けたい。	☆事前アンケートの結果をタブレットに提示することで、本時の内容への導入を図り、意識付けをする。 ・場面絵を貼って話の内容がつかめるようにする。 ・教材を全文まとめて読むのではなく、場面ごとに区切って読み、登場人物の気持ちを考えるようにする。 ○気持ちを考える事が苦手な児童には、発問ごとに個別に声をかけ、活動内容が分かるようにする。 ・自分の考えをノートに書くことで、意見を言うときの参考にしたり、友達の意見と比べたりするための手立てとする。 ・友達として、相手のことを理解しようとしていることに気付くようにする。 ・役割演技を取り入れることで、陽子の気持ちを深く考えるようにする。 ☆タブレットでスカイメニューのポジショニングを使って投票し意見を視覚化する。 ・男子の視点、女子の視点の両方から理由を考えるようにする。 ・陽子の心の変化が対比して分かるように板書を工夫する。 ○考えが思い付かない児童には、みんなの意見を聞いて共感するかそうでないかを判断し、共感できる意見をもとに自分の意見を決めるよう助言する。 (評)友達と互いに理解し合い、よさを認め合いながら人間関係を築いていこうとする気持ちをもつことができたか。(ノート・発表)

5 関連・発展

今後も、生活や学習活動などの様々な場面を通して、互いに理解し合い、よさを認め合いながら協力していくことの大切さに触れ、生活の中で意識するよう指導していきたい。また、「心のサーブ」の活動を通して、日頃から友達のよさを見付けることで友達との関係づくりと自己肯定感を高めるようにしていきたい。